富田林市文化財調査報告57

平成27年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2016．3

富田林市教育委員会

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

二〇一六年三月

富田林市教育委員会

はじめに

大阪府の東南部に位置する富田林市は、自然と歴史に恵まれたまちです。

市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれています。

市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けたところで、特に大阪府内で唯一「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている「富田林寺内町」には、歴史的に貴重な町並みが残されています。

また、西部丘陵地域は、計画的に開発が進められたニュータウンとなっており、長い歴史に裏打ちされた町並みと新しい住環境が共存する郊外都市となっています。

市の成り立ちをたどれば、先史時代より人々がこの地において日々の暮らしを営んできた様子が、市内遺跡の発掘調査でわかってきています。

この報告書はその一端となる、平成 27 年度に実施した緊急発掘調査についてまとめたものとなります。本市の歴史を知る上で、また貴重な記録を得ることができました。

最後になりましたが、緊急発掘調査および本書の刊行におきまして、ご理解とご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

富田林市教育委員会
教育長　芝本　哲也

例　言

１．　本書は、平成 27 年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。

２．　本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成 27 年４月１日から平成 28 年３月 31 日にかけて実施した。

３．　平成 27 年の現地調査および整理作業は、同課職員　中辻　亘・角南辰馬・林　正樹、同課非常勤職員　粟田　薫・渡邉晴香・水久保祥子（現・茨木市教育委員会）が担当し、同課非常勤職員桑本彰子がこれを補佐した。

４．　本書には整理作業等の都合から、平成 27 年 12 月 31 日までに現地調査が終了したものを掲載した。

５．　執筆は各調査担当者が行い、編集を渡邉が行った。

６．　平成 27 年の現地調査及び整理作業には、以下の者の参加を得た。（敬省略）
板坂信治、伊藤成海、大澤　嶺、田中香里、土谷武嗣、土山賀代、土山寧々、西村雅美、山口陽子

凡　例

１．　本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（Ｔ．Ｐ．）で表示している。

２．　現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1970）を使用した。

３．　引用・参考文献は巻末に示した。

４．　遺構番号については、現地調査で通し番号を付与した（Ｆ１、Ｆ２、Ｆ３...）。喜志遺跡および中野北遺跡の調査では、整理作業で遺構の性格別に番号を付け直したが、平面図の中で当初の番号も併記している。

目　次

第１章　平成 27 年の調査
　第１節　平成 27 年度の調査状況・・・

図 10　Ⅱ区南壁断面図（Ｓ＝１／50）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
図 11　全体平面図（Ｓ＝１／100）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
図 12　Ⅱ区溝１断ち割り南壁断面図（Ｓ＝１／50）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
図 13　出土遺物実測図（Ｓ＝１／４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

表　目　次

表１　発掘届（通知）受理件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
表２　発掘調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
表３　試掘調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
表４　その他調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

写　真　目　次

写真１　甲田南遺跡（ＫＤ2014－１）調査状況（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
写真２　宮神社裏山１号墳　北西の堀状の窪み（南から、写真右側が後円部）・・・・・・・・・・・6

図　版　目　次

図版１　粟ヶ池遺跡（ＡＧ2014－１）
調査区近景（北東から）、調査区近景（南から）
図版２　粟ヶ池遺跡（ＡＧ2014－１）
調査区西壁土層断面（南東から）、調査区南壁土層断面（北西から）
図版３　喜志遺跡（ＫＳ2015－１）
１面目完掘状況（南西から）、２面目完掘状況（南西から）
図版４　中野北遺跡（ＮＮＮ2015－１）
調査区近景（南から）、調査区近景（北から）
図版５　中野北遺跡（ＮＮＮ2015－１）
Ⅱ区　溝１土層断面（北東から）、Ⅱ区　溝１西側肩部状況（北東から）
図版６　中野北遺跡（ＮＮＮ2015－１）
Ⅱ区　溝１土層断面（北西から）、Ⅱ区　溝１東側肩部状況（北西から）
図版７　中野北遺跡（ＮＮＮ2015－１）
Ⅱ区　西壁土層断面（南東から）、Ⅰ区近景（南東から）
図版８　中野北遺跡（ＮＮＮ2015－１）
Ⅰ区　西壁土層断面（北東から）、Ⅰ区　土坑２土層断面（西から）

第１章　平成 27 年の調査

第１節　平成 27 年の調査状況

平成 27 年１月から 12 月において、文化財保護法第 93 条・94 条に基づく発掘届出・発掘通知の提出状況は、表１のとおりであった。件数は前年度に比べると、19 件増加している。これは、以前より行われてきたものも含めた､小規模な宅地造成に伴う住宅の発掘届出が出されていることに起因する。ただし、発掘調査や立会調査、試掘調査などの割合については前年度とあまり変わらない。

その中で、埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査において、新規発見となった遺跡と範囲拡大した遺跡がある。林口遺跡は若松町五丁目での試掘調査で新規発見となり、工事は遺構面を保護した変更設計により慎重施行となった。範囲拡大したのは、中野町二丁目の試掘調査によって遺構と遺物を発見しれた中野北遺跡である。この中野北遺跡については現在協議中である。

さて、これらのうち国庫補助事業として調査を実施したのは、甲田南遺跡（第１章第２節)、粟ヶ池遺跡（第２章)、喜志遺跡（第３章)、中野北遺跡（第４章）の計４件と宮神社裏山古墳群の分布調査である。事前確認調査の甲田南遺跡と、宮神社裏山古墳群の分布調査については本章で報告する。

表１　発掘届（通知）受理件数

	発掘届出(93条)					発掘通知(94条)					合計
	事前	立会	慎重	遺憾	小計	事前	立会	慎重	遺憾	小計	
道路	0	0	0	0	0	0	0	8	1	9	9
宅地造成	4	1	0	1	6	0	0	0	0	0	6
個人住宅	4	17	17	0	38	0	0	0	0	0	38
分譲住宅	3	6	11	0	20	0	0	0	0	0	20
共同住宅	3	2	1	0	6	0	0	0	0	0	6
兼用住宅	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
店舗	2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	3
その他建物	5	4	1	1	11	0	0	0	0	0	11
公園造成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
ガス	0	0	37	0	37	0	0	0	0	0	37
電気	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2
水道	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	5
下水道	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
電話通信	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
その他開発	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小計	22	32	70	2	126	0	1	15	1	17	143

表２　発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積（㎡）	調査結果	担当者	調査番号
1	1月23日	桜ケ丘町	新家遺跡	宅地造成	30	遺構・遺物なし	水久保	
2	1月22日	若松町西二丁目	中野遺跡	その他開発	1.8	遺構・遺物あり（設計変更で遺構面保護）	角南	
3	1月27日・4月1日	甲田三丁目	甲田遺跡、甲田南遺跡	店舗	19.5	遺構・遺物あり（設計変更で遺構面保護	角南	KD2014-1・KD2015-1
4	2月19日	甲田三丁目	甲田南遺跡	その他建物	14.2	遺物あり（設計変更により遺構面保護）	角南	KDS2014-1
5	3月5日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	11	遺構・遺物あり（7の事前調査）	角南	KSS2014-1
6	3月6日～13日	桜井町二丁目	粟ヶ池遺跡	個人住宅	15.6	遺構・遺物あり	角南	AG2014-1
7	3月26日～5月9日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	582	遺構・遺物あり（4の本調査）	角南	KSS2014-1
8	4月23日	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	3.8	遺構・遺物なし	角南	
9	5月7日	喜志町四丁目	喜志遺跡	個人住宅	1.3	遺物あり（11の事前調査）	角南	KS2015-1
10	5月13日	中野町二丁目	中野遺跡	共同住宅	9.3	遺構・遺物あり（14の事前調査）	林	NN2015-1
11	6月1・2日	喜志町四丁目	喜志遺跡	個人住宅	2.75	遺構・遺物あり（9の本調査）	角南・林	KS2015-1
12	6月12日	甲田一丁目	甲田遺跡	その他建物		遺構・遺物なし	林	
13	6月16日	中野町三丁目	中野北遺跡	共同住宅	2.9	遺構・遺物なし	林	NN2015-1
14	6月30日～7月24日	中野町二丁目	中野遺跡	共同住宅	36	遺構・遺物あり（10の本調査）	林	
15	7月6日	若松町四丁目	中野遺跡	共同住宅	6	遺構・遺物なし	角南	
16	8月4日	本町	堀ノ内遺跡	店舗	4	遺構・遺物なし	角南	
17	8月7日	中野町二丁目	中野北遺跡	個人住宅	0.3	遺構・遺物あり（19の事前調査）	角南	NNN2015-1
18	8月17～19日	中野町二丁目	中野遺跡	分譲住宅	66	遺構・遺物あり	角南・渡邉	
19	9月2～18日	中野町二丁目	中野北遺跡	個人住宅	203	遺構・遺物あり（17の本調査）	林	NNN2015-1
20	9月18日	別井二丁目	別井遺跡	個人住宅	2	遺構・遺物なし	角南	
21	10月19日	富田林町	富田林寺内町遺跡	分譲住宅	7.2	遺構・遺物なし	林、渡邉	
22	10月19日	富田林町	富田林寺内町遺跡	分譲住宅	2.1	遺構・遺物なし	林、渡邉	
23	10月27日	甲田一丁目	甲田遺跡	その他建物	1.2	遺構・遺物なし	林	
24	12月14日	錦織東一丁目	錦織遺跡	個人住宅	3.2	遺物あり（平成28年1月本調査）	角南	NK2015-1

表３　試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積（㎡）	調査結果	担当者
1	5月19・25・27日	錦織東三丁目	共同住宅	工事立会	遺構・遺物なし（工事立会）	林
2	5月22日	大字甘南備	その他建物	工事立会	遺構・遺物なし	林
3	7月24日	若松町五丁目	宅地造成	8	遺構なし・遺物あり	角南
4	8月5日	大字毛人谷	店舗	3	遺構・遺物なし	林
5	9月29日	若松町五丁目	共同住宅	1.6	遺構・遺物あり（遺構面保護）	角南
6	10月1日	若松町西一丁目	店舗付共同住宅	5.9	遺構・遺物なし	林
7	10月5日	若松町五丁目	宅地造成	3	遺構・遺物なし	林
8	10月22日	中野町東一丁目	その他建物	2.6	遺構なし・遺物あり	角南
9	11月24日	山中田町二丁目	宅地造成	3.4	遺構なし・遺物あり	林
10	11月26日	大字喜志	その他建物	3	遺構・遺物なし	林
11	11月6日	若松町西一丁目	共同住宅	16.9	遺構・遺物なし	林
12	12月16～18日	中野町西二丁目	店舗	117	遺構・遺物あり（協議中）	林
13	1月13日	山中田町二丁目	宅地造成	1.5	遺構・遺物なし	角南

表４　その他の調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査内容	担当者
1	3月24日	富田林市宮町三丁目	宮神社裏山古墳群	現状確認のための踏査を行った。	角南

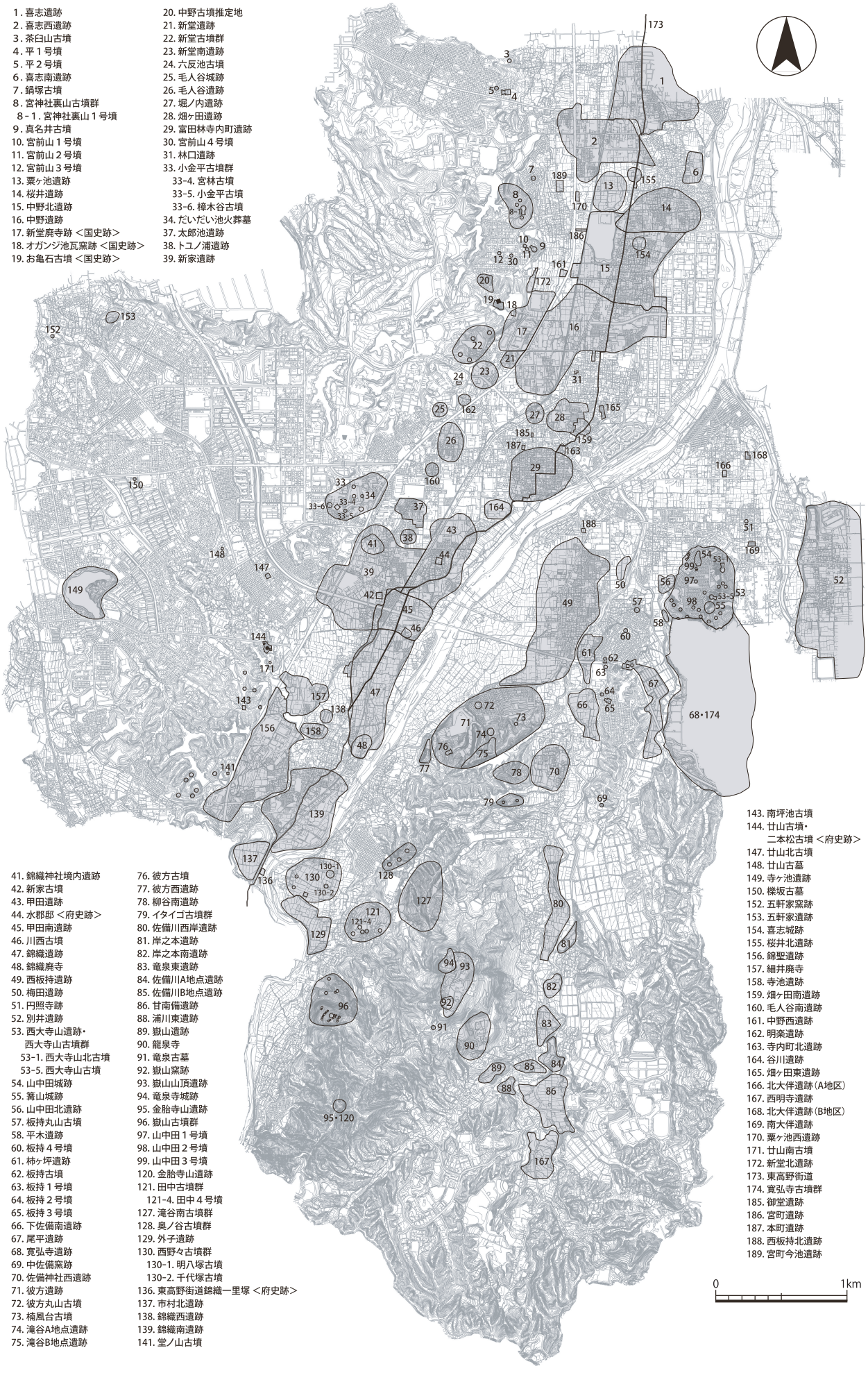


図１　市内遺跡分布図（Ｓ＝1／40,000）

第２節　甲田南遺跡（KDS2014-1）の調査

甲田三丁目地内の甲田南遺跡内において、高齢者住宅の建設が計画され、2015 年２月に申請者より都市計画法に基づく事前協議書が提出された。開発予定地周辺では、国道 309 号の敷設に伴う調査などで多数の遺構、遺物を確認しており、近年では 2009 年に国道旧 170 号の歩道設置に伴う大阪府教育委員会の調査で、弥生時代の土器棺や古代の竪穴建物がみつかっている（大阪府教育委員会 2011）。これらの状況から、開発予定地に遺構が存在することは確実な状況であったため、保存協議に向けた確認調査を実施することにした。調査は 2015 年２月に一部を補助事業対象として実施した。

なお、北側の隣接地においても、同時期に店舗の建設が計画され、2015 年１月（ＫＤ2014－１）および４月（ＫＤ2015－１）の２回に分けて事前調査を実施している。補助事業対象外の調査であるが、今回の調査成果を理解するうえでも必要であるため、それらも含めた配置図（図２）を掲載しておく（こちらの開発範囲は甲田遺跡と甲田南遺跡の両方にまたがっているが、３分の２以上を占める甲田遺跡を調査遺跡名とした）。

調査は、建築予定範囲に南北方向のトレンチ（長さ約 23.5m、幅約 0.5m）を設定して行った（写真１）。トレンチ北端に入れたサブトレンチでの観察結果から、層序は耕作土層、旧耕作土層、床土層と続き、現況面から深さ約 33 ㎝で黒褐色粘質土層（10YR3/2）となる。この層には土師器、須恵器が含まれ、層厚は 18 ㎝であった。その直下には、５㎝前後の礫を含む灰黄褐色粘質土層（10YR4/2）があり、遺物は確認できなかった。層厚については、20 ㎝以上であることを確認するにとどまった。

黒褐色粘質土層および灰黄褐色粘質土層は、前述の大阪府教育委員会の調査において「黒色帯」と呼称された土層にあたると考えられる。弥生時代から古墳時代にかけて形成された層とされ、上面は古墳時代後期以降から中世にかけての遺構面となっているが、土色と遺構埋土が類似し、遺構検出が難しいようである。この「黒色帯」は、北側の調査地（ＫＤ2014－1およびＫＤ2015－１）でも確認しており、その上面レベルは東側の石川に向かって下降することが分かっている。これらの所見もふまえたうえで、掘削はサブトレンチを除いて黒褐色粘質土の上面までにとどめ、その標高を記録する作業を行った。

この調査成果をもとに、申請者と再度協議を行ったところ、杭工法による遺構面保護に配慮した設計に変更になったため、記録保存による本調査は回避された。なお、北側の開発についても同様に設計変更となり、一時は広範囲にわたって損壊の恐れがあった甲田遺跡、甲田南遺跡を、申請者のご理解とご協力により、軽微な損壊にとどめることができた。

写真１　甲田南遺跡（ＫＤＳ2014－１）調査状況（南から）

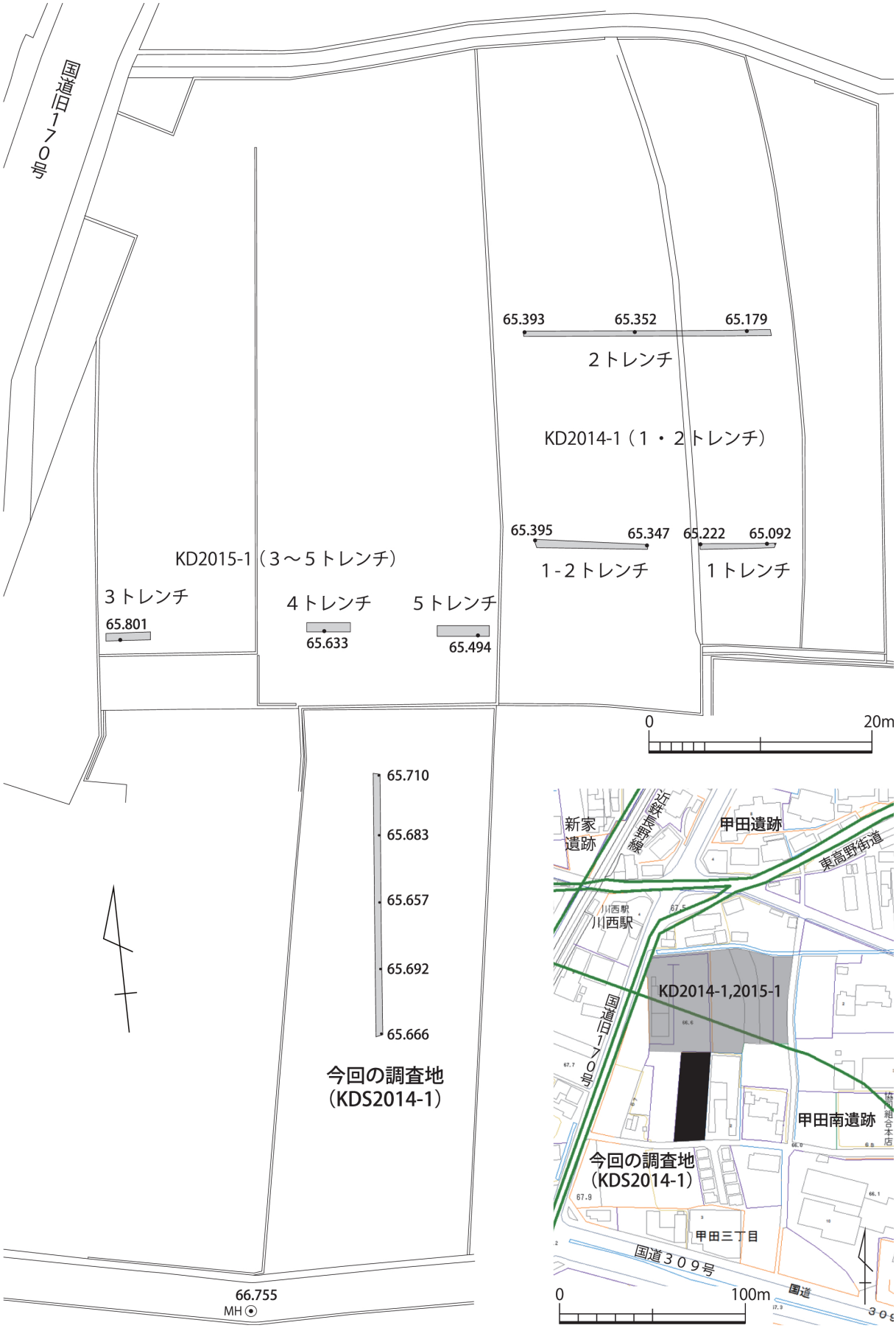


図２　調査位置図（Ｓ＝１／3,000）とトレンチ配置図（Ｓ＝１／500）

第３節　宮神社裏山古墳群の分布調査

宮町三丁目に位置する宮神社裏山古墳群において、2015 年３月に踏査による現状確認を行った。美具久留御魂神社の境内の最高点には、古墳時代前期の築造とみられる１基の前方後円墳（１号墳）があり、周辺には古墳時代後期とみられる３基の円墳（２～４号墳）がある（図３）。

今回の踏査では、１号墳で新たな所見が得られた。後円部北西および北東、前方部南西で堀状の窪みを確認し、とりわけ北西部分については明瞭であった（写真２）。また、後円部北側においては、呼称が適当ではないかもしれないが、「張出部」のような幅の広い平坦面が存在する。堀状の窪みが古墳に伴うものであれば、この「張出部」はそれによって区画されていることになり、墳丘の付属施設となる可能性がある。等高線が一部を除いて１m間隔であるため、詳細な測量図の作成が今後の課題である。なお、山道によって削られた部分で土師器および埴輪の細片が少量散布しているのを確認したが、詳細な時期が分かるものはなかった。

写真２　宮神社裏山１号墳　北西の堀状の窪み

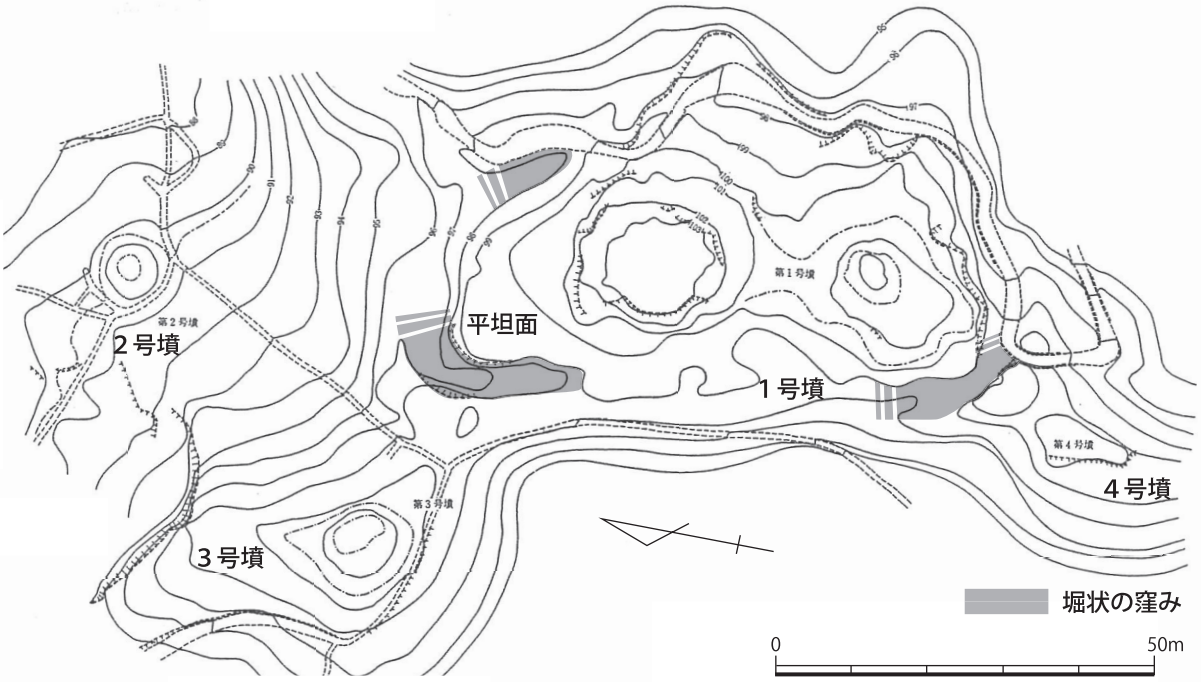


図３　宮神社裏山古墳群　墳丘測量図（Ｓ＝１／1,000）

第２章　粟ヶ池遺跡（AG2014-1）の調査

第１節　調査の経緯と経過

桜井町二丁目に所在する粟ヶ池遺跡は、地形的には石川の西岸に形成された中位段丘上に位置する。この中位段丘には、北側から入り込む浅い谷地形があり、遺跡はその中に収まるようにして広がっている。遺跡の南側には、谷地形を利用して築造された粟ヶ池が接している。

この地に遺跡が存在することが広く周知されたのは、1978 年刊行の『富田林市の埋蔵文化財―埋蔵文化財基本分布図―』（富田林市教育委員会 1978）においてであり、「粟ヶ池遺物散布地」として南北 150m、東西 80mの範囲にわたって、サヌカイトおよび須恵器が散布することが記されている。その後も開発行為が行われることがほとんどなく、田畑の景観が維持されてきたが、現在は当時の認識よりも広い範囲が粟ヶ池遺跡として登録されている（図４）。

遺跡に調査のメスが入ったのは 2006 年度のことである。粟ヶ池に近い遺跡南端付近で、保育園建設に先立つ事前調査を実施している（2006 年度調査地）。当時の現況面から約 1.5mまで掘削を行ったが、砂質土を主体とする軟弱な堆積が続くのみで、地山は確認できていない。遺構、遺物も認められず、調査担当者はこの堆積を「旧河道のもの」と判断している。

初めて遺構を確認したのは、遺跡内で２回目となった 2010 年度の集会所建設に先立つ事前調査である。現耕作土の直下という非常に浅いレベルに地山面があり、遺構を確認したことから、引き続き浄化槽部分で本調査を実施した（ＡＧ2010－１）。小規模調査ながら多数のピットを確認したが、少量の遺物から６世紀代の遺構であることを推測するにとどまった。

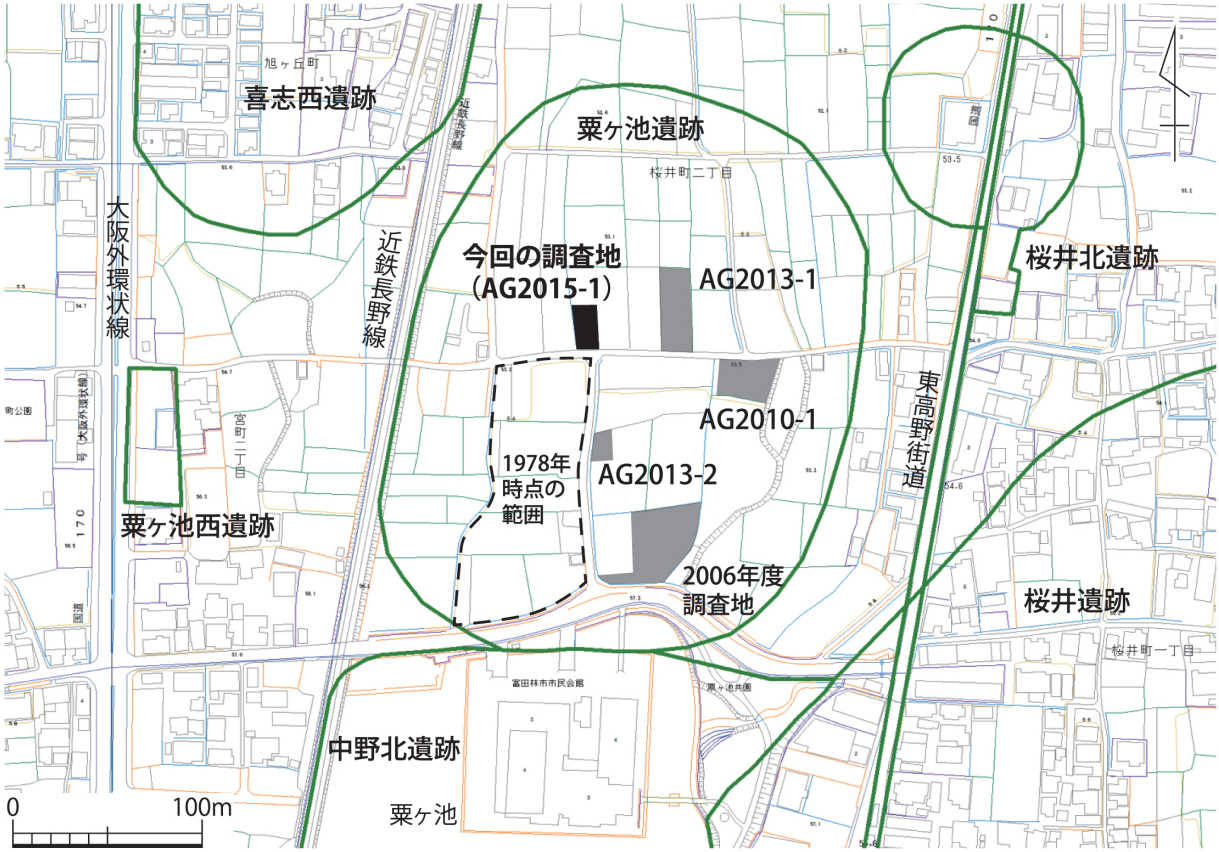


図４　調査位置図（Ｓ＝１／4,000）

2013年度は児童遊園の新設工事と、個人住宅の新築工事に先立つ２件の事前調査を実施した。前者（ＡＧ2013－１）は2010年度の調査地に近く、多数の遺構、遺物を確認したため、引き続き擁壁設置部分で本調査を実施した。調査区北端付近では複数のピットがみられたが、調査区の広範囲にわたって東西方向にのびる浅い落込みを確認した。古墳時代後期から奈良時代にかけての遺物が出土し、落ち込み内からは古墳時代後期の円筒埴輪も出土している。一方の後者（ＡＧ2013－２）については、遺構は確認できず、遺物も少量であった。

前置きが長くなったが、今回の調査は個人住宅の新築工事に伴って実施したものである。文化財保護法に基づく発掘届出書が2014年12月に提出されたため、ただちに申請者と協議を行った。調査地の現況は畑であったが、前面の道路と高さを合わせるため、すでに盛土をしたうえで土地利用がなされており、現況面は周囲の耕作土面よりも高い。そのため、計画されていた建物基礎のほとんどは遺構面に影響のない深度であったが、浄化槽とその周辺の深基礎が遺構面に影響するがことが予想され、事前調査と本調査を兼ねた発掘調査を実施することになった（図５）。現地調査は2015年３月６日から同月13日にかけて実施し、実働日数は４日であった。調査面積は約15.6㎡である。

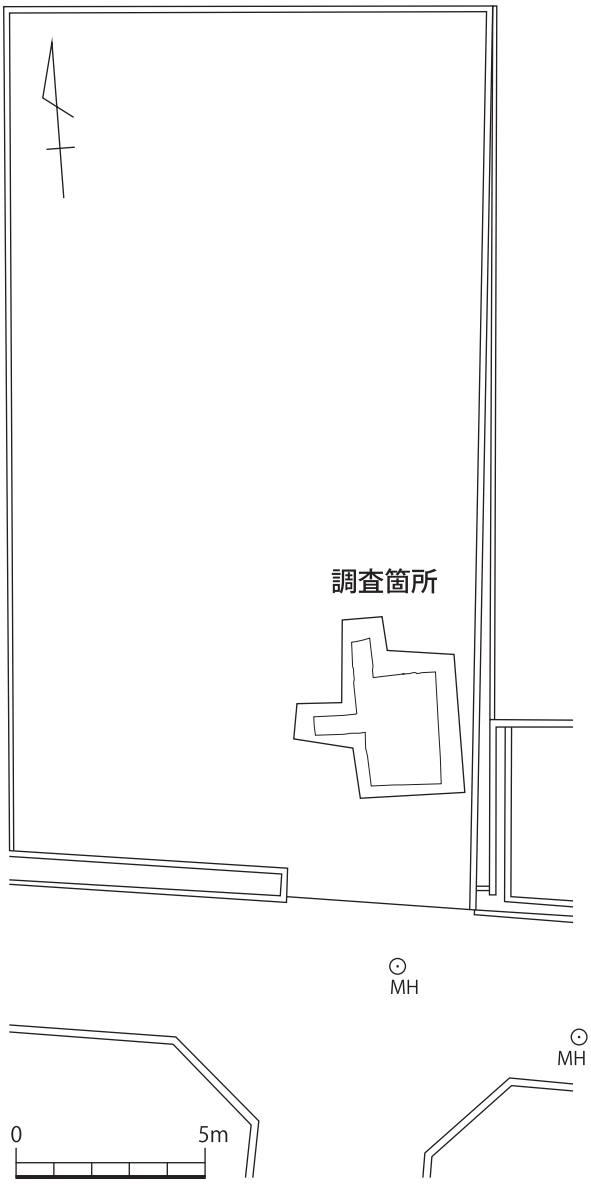


図５　トレンチ配置図（Ｓ＝１／200）

第２節　調査の成果

基本層序は、真砂土による盛土層、２層の旧耕作土層（上層の上面は周囲の現耕作土面のレベルに相当）、床土層、旧耕作土層、明黄褐色粘質土の地山である。地山面で遺構検出を行い、12基の遺構を確認した（図６）。なお、遺構番号は調査時に付与したものをそのまま記す。

方形の浅い落ち込み状の遺構であるＦ１は、埋土が３層に分かれる。上、中層は暗灰黄色粘質土であるが、下層は地山が汚れたようなにぶい黄色粘質土となっている。東西方向にのびる溝状の遺構であるＦ２が、これに類似した堆積状況を示しており（ただし上、中層は滞水の影響か青灰色に変色している）、同時期の遺構かもしれない。Ｆ１からは土師器の細片しか確認できなかったが、Ｆ２からは土師器の細片のほか、６世紀代とみられる須恵器の坏身片が出土した。

Ｆ２埋没後に掘り込まれたＦ11は、土色からＦ12と区別して検出したが、もとは南北方向にのびる一体の溝であった可能性がある。Ｆ11からも、土師器の細片と６世紀代とみられる須恵器の坏身片が出土している。

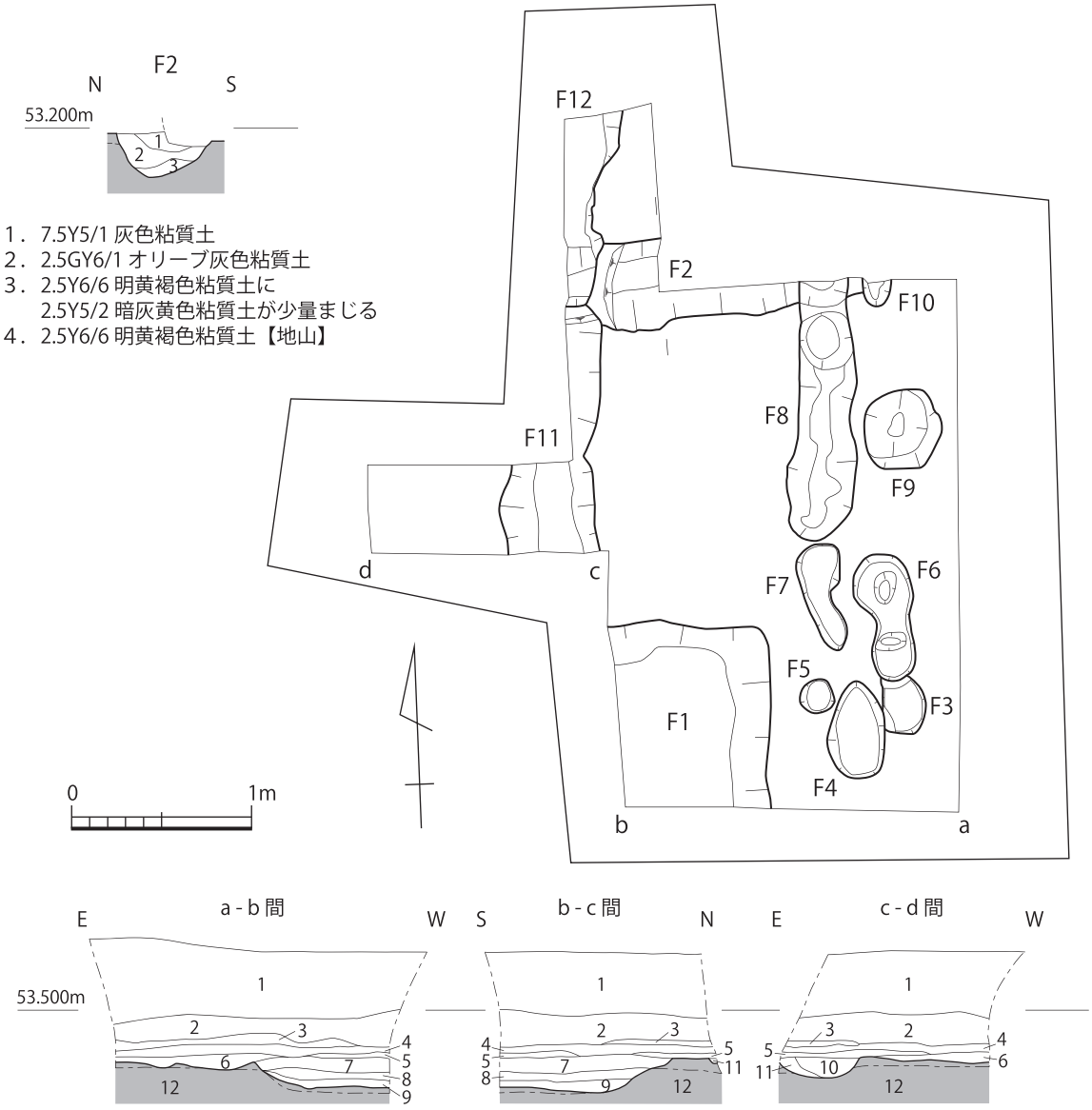


図６　トレンチ平面・断面図（Ｓ＝１／40）

このほかの遺構については、検出面からの深さが５cm 前後と浅く、遺構と認定してよいのか疑わしいものも少なくない。遺物はＦ５、Ｆ８から出土しており、ともに土師器の細片である。

第３節　まとめ

今回も小規模調査のため、遺構の性格や所属時期など不明な点も多いが、数少ない粟ヶ池遺跡の調査事例を一つ加えることができた。これまでの調査成果とあわせて概観すると、遺跡範囲の中央のやや北側には東西方向の浅い落込みが広がり、その北側と南側にピット群が存在する。落ち込みは今回の調査地までは続かず、明確なピットも確認できなかったが、西側への遺構の広がりが明らかになった。ＡＧ2010－１地点より南側については、遺構は未確認である。しかし、1978 年に認識された遺物散布範囲は、現在の遺跡範囲内の南西部分にあたるため、今後も注意が必要である。

第３章　喜志遺跡（KS2015-1）の調査

喜志遺跡は、石川中流域西岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。遺跡範囲は富田林市と羽曳野市にまたがっており、富田林市喜志町・木戸山町の一部、羽曳野市東阪田・壺井・広瀬・通法寺のそれぞれ一部に該当する。サヌカイト製品が多量に出土する遺跡として知られており、弥生時代中期における石器製作集団の集落跡として位置づけられている。

第１節　調査の経緯と経過

個人住宅の建て替えに伴う発掘調査である。調査地は、喜志小学校の北 150mにある住宅地の一角に位置する。『富田林市史』（富田林市史編纂委員会 1985）によると、同地付近で灌漑用水路の改良工事を行った際、溝状遺構・竪穴住居址と推定される遺構とともに、多量のサヌカイト剥片や弥生土器が出土したことが記されている。また、周辺で過去に実施された調査においても、包含層や遺構が確認されている。

本調査に先立ち、平成 27 年 5 月 7 日に事前調査を実施した。サヌカイトや弥生土器片を含む層を確認し、遺構が良好に残存している可能性が高いと判断したことから、申請者と協議を行った。その結果、浄化槽予定地において平成 27 年 6 月 1 日から 2 日間本調査を実施することとなった。

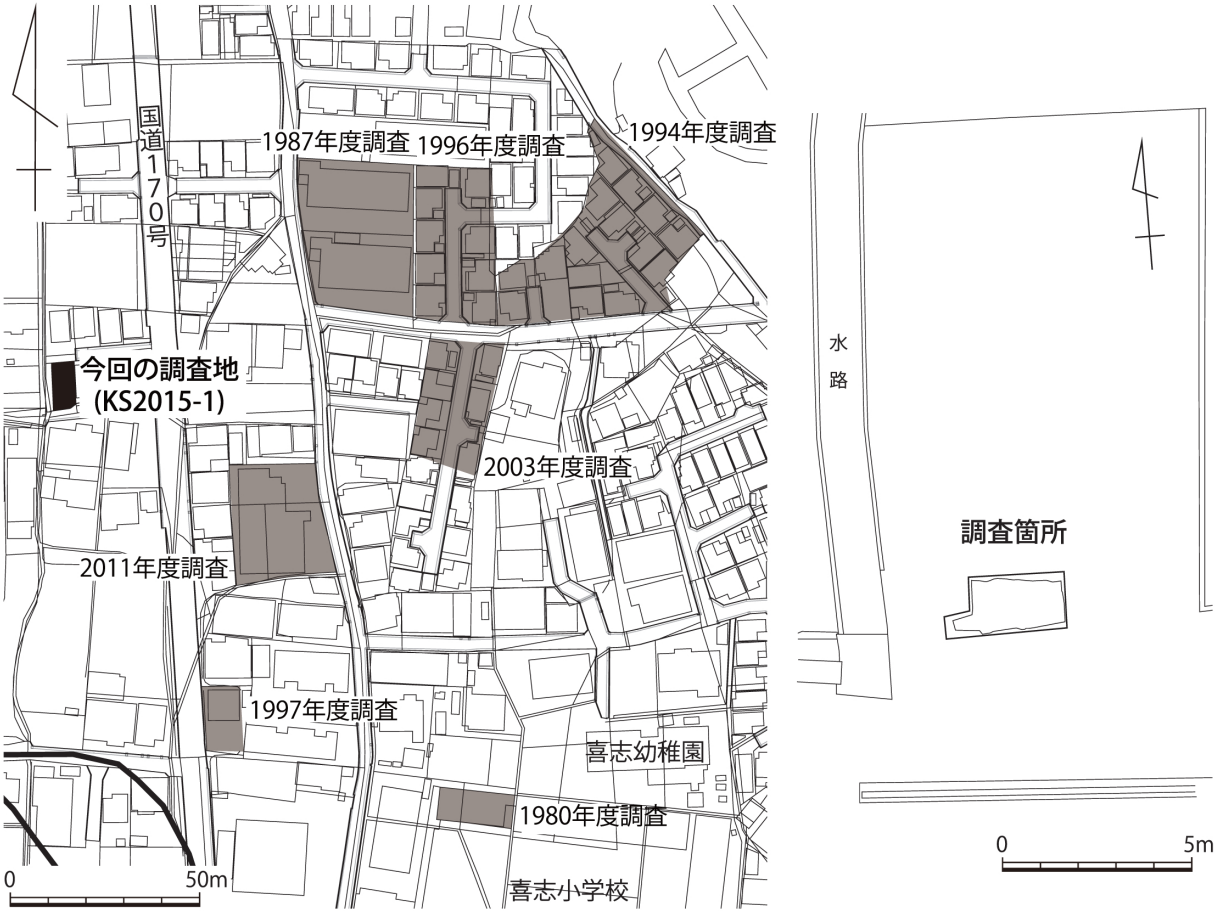
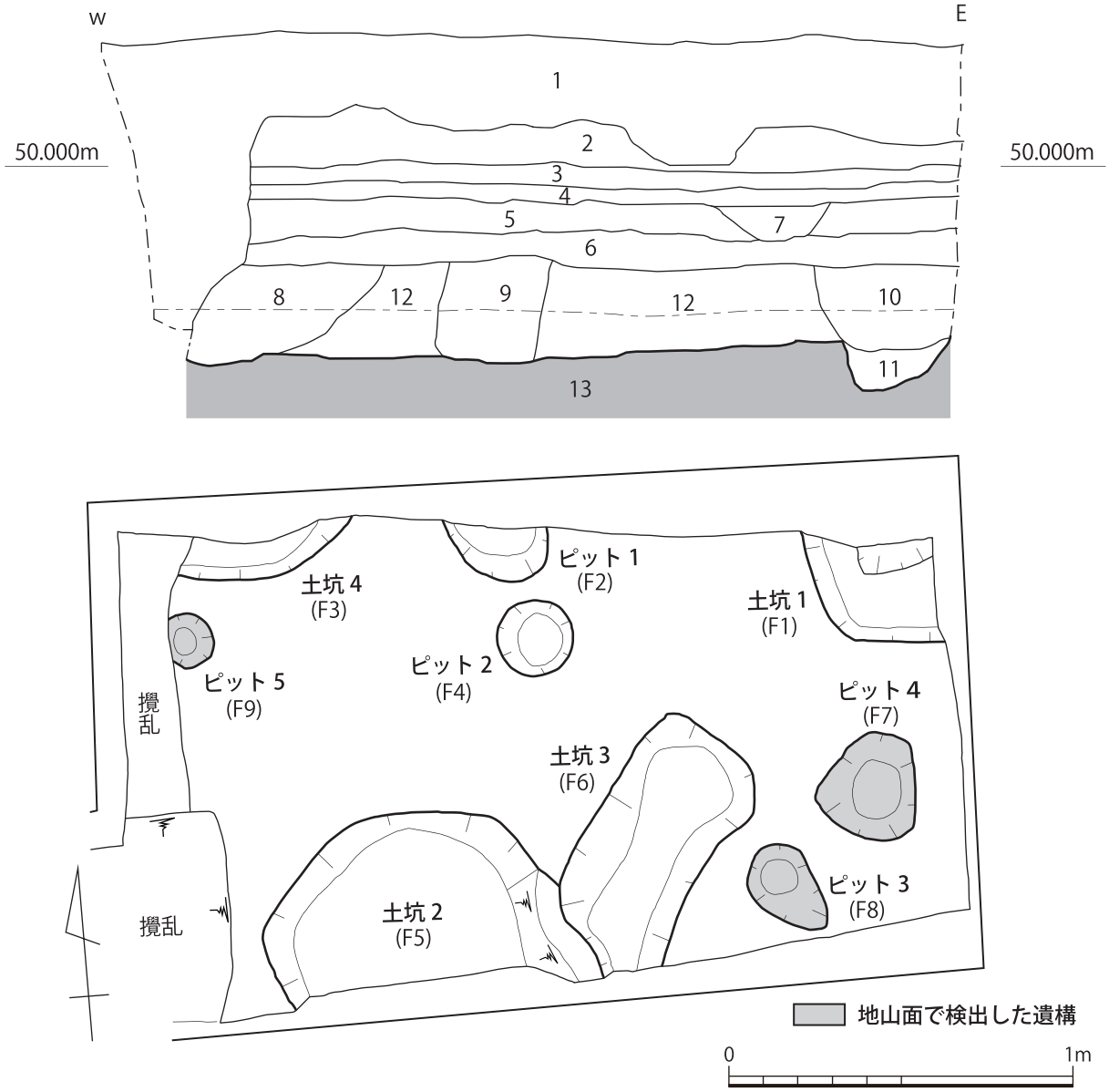


図７　調査位置図（Ｓ＝１／2,000）とトレンチ配置図（Ｓ＝１／200）



1. 盛土・撹乱
2. 旧耕作土
3. 旧耕作土
4. 旧床土
5. 旧耕作土
6. 旧床土
7. 10YR6/1 褐灰色砂質土
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土【土坑４埋土】
9. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土【ピット１埋土】
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土【土坑１埋土】
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土【土坑１埋土】
12. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土（上面にマンガン粒含む。遺物は上層ほど多い）
13. 10YR7/8 黄橙色粘質土（マンガン粒含む）【地山】

図８　トレンチ平面図・北壁断面図（Ｓ＝１／20）

第２節　調査の方法と成果

浄化槽予定地に南北約 1.2m、東西約 2.4m（計 2.75 ㎡）のトレンチを設定した。旧耕作土下面まで重機による掘削を行い、その後、地山面まで人力による掘削を行った。

遺構は、12 層上面と地山面で確認している。12 層上面において遺構検出を試みたがはっきりせず、0.15m程掘り下げて遺構検出を行った。結果、土坑４基（土坑 1～4）ピット２基（ピット１・2）を確認し（１面目）、その後に地山面まで掘削したところ、ピット３基（ピット 3～5）を検出した（２面目）。

遺物は、コンテナ１箱程である。弥生土器とサヌカイトが主であり、土坑２・３では土師器が少量混じる。トレンチ掘削中に弥生土器・サヌカイトのほか、少量の土師器・須恵器・黒色土器を確認した。簾状文、扇形文、櫛描文などが描かれた壷胴部片が見られることから、弥生時代中期に属するものが大勢を占めると思われる。サヌカイトは石鏃・スクレイパーのほか、二次加工または微細剥離痕の見られる剥片が複数存在する。剥離面の風化が進んだ剥片が１点出土しているが、単体で旧石器と判断することはできない。

第３節　まとめ

小規模調査であり、今回の調査だけをもって遺跡の性格を語ることはできない。近隣で竪穴住居址が検出されていることから、弥生時代の集落域内である可能性が高い。喜志遺跡西部の様相については不明な点も多く、今回の成果の位置づけは周辺地域の調査が進展した段階で行いたい。

第４章　中野北遺跡（NNN2015-1）の調査

中野北遺跡は、石川中流域西岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。遺跡範囲は富田林市中野町一～三丁目・粟ヶ池町の一部に該当する。その中でも段丘崖に面した遺跡東部域では、古代から中世にかけての遺構が多数発見されている（図９）。遺跡範囲内には喜志城跡、中野城伝承地など楠氏にまつわる伝承を持つ城跡が存在している。

第１節　調査の経緯

個人住宅の新築に伴う発掘調査である。平成 27 年８月４日に事前調査を行い、建築予定範囲内の２箇所を掘削した結果、旧耕作土直下で地山層と遺構を確認した。遺構面まで極めて浅いことから、申請者と協議を行い、住宅およびガレージ部分の全面を調査対象とすることになった。本調査は平成 27 年９月２日から同月 18 日まで実施した。

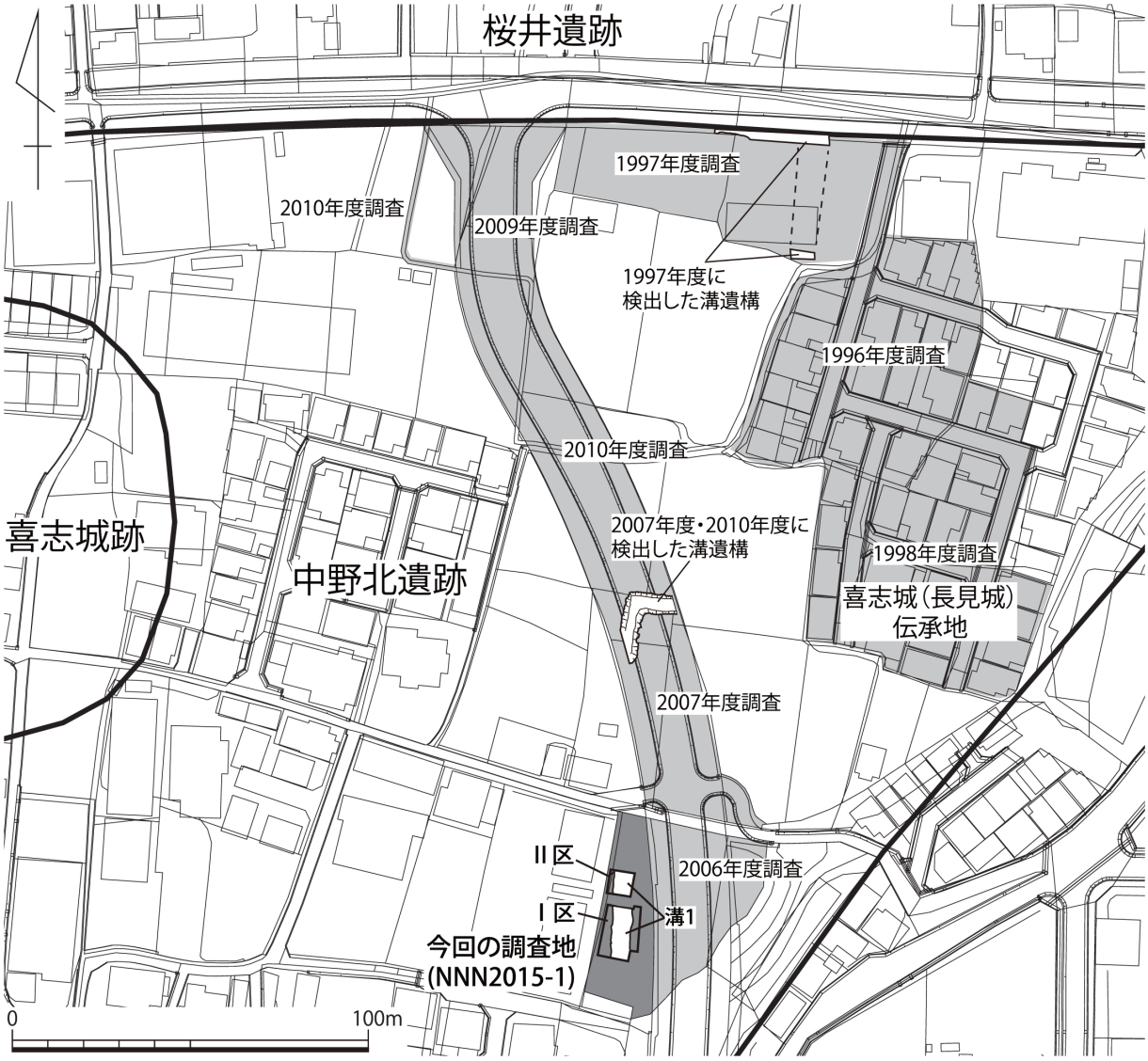


図９　調査位置図（Ｓ＝１／2,000）

第２節　調査の方法と経過

調査にあたって、住宅部分（約 153 ㎡）をⅠ区、ガレージ部分（約 50 ㎡）をⅡ区として設定した（図 11）。重機運用の都合上、Ⅱ区西端から機械掘削に着手し、GL-0.3m で地山面を検出した。東側へ地山面が落ち込んでおり、東端で GL-0.6m まで下げた時点で壁面の観察を行った結果、遺構埋土を掘削しているとの判断に至ったため、掘削を中断した。Ⅰ区は同じく西端から機械掘削に着手し、GL-0.3m で地山面と南北に延びる遺構の肩を確認した。同レベルで東側でも南北に延びる遺構の肩を確認し、機械掘削を終えた。

Ⅰ区で検出した遺構（溝１）の幅は、最も広い箇所で６m近くにおよび、Ⅱ区の結果から GL-0.6m よりもかなり深くなることが予想された。この状況を受けて申請者と再度協議し、溝１の取り扱いについては、Ⅰ区は遺構検出にとどめ、Ⅱ区で幅約 0.5m の断ち割りによる断面確認を行うことにした。

基本層序は、現耕作土層、旧耕作土層、地山である（図 10）。遺構検出はすべて地山面で行った。

第３節　調査の成果

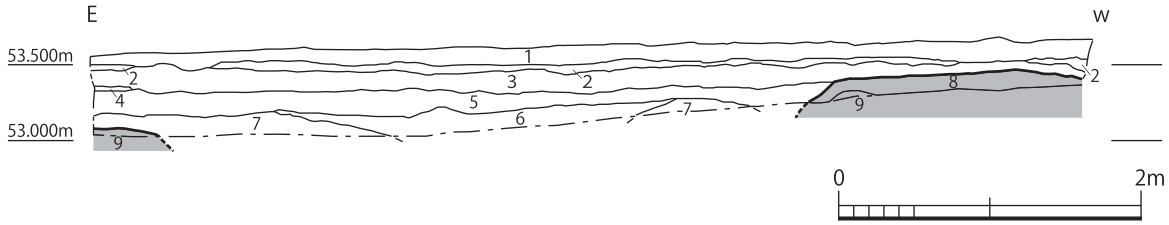
（１）Ⅰ区（図 11・13）

特筆すべき遺構は、調査区の中央を南北方向に一線で貫く溝１である。後述するⅡ区での成果をあわせると、幅約６m、長さ 24.5m以上で、北側はⅡ区へ、南側は調査区外へと続いている。すでに述べたように、Ⅰ区では埋土の掘削を行っていない。遺構精査時に 16 世紀初頭の瓦質羽釜が出土している。

溝１の両脇からは、土坑２基（土坑２・３）、溝８条（溝３～10）、ピット 10 基（ピット３～５・７～12・15）を検出している。

溝３～８は素掘り小溝であり、溝８を除き南北方向に伸びる。溝８は溝７の北端を切って、北東方向に伸びる。溝３～８の埋土は細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土であり、溝９・10 はにぶい黄褐色に黄褐色粘質土がブロックに混じる。溝９から瓦器碗の小片が出土しており、溝１に切られていることから溝１よりも古く、埋土が類似する溝 10 についても同じ時期の可能性がある。

土坑２は直径 1.7mの円形の土坑である。溝１と同様の理由で深さ 0.5mまでしか掘削していない。埋土は３層に分かれる。１層は溝３～８と同様のにぶい黄褐色粘質土であり、２層は大きな礫混じりの灰黄褐色粘質土である。３層は黒褐色粘質土で、土坑の側面から内に向かって斜めに堆積している。遺構側面が垂直であることなどから、井戸の可能性があるが、底まで掘削していないので断定はできない。遺物は主に２層から出土しており、瓦質火鉢（図 13－１）・瓦・土師器がある。土坑３は旧耕



1．現耕作土
2．床土
3．旧耕作土
4．旧床土
5．10YR4/2 灰黄褐色砂質土【溝１埋土】
6．2.5Y6/2 灰黄色細砂（図12-2層と同じ）【溝１埋土】
7．2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質細砂（図12-5層と同じ）【溝１埋土】
8．10YR5/4 にぶい黄褐色礫混中砂【地山】
9．7.5YR5/6 明褐色礫混中砂【地山】

図 10　Ⅱ区南壁断面図（Ｓ＝１／50）

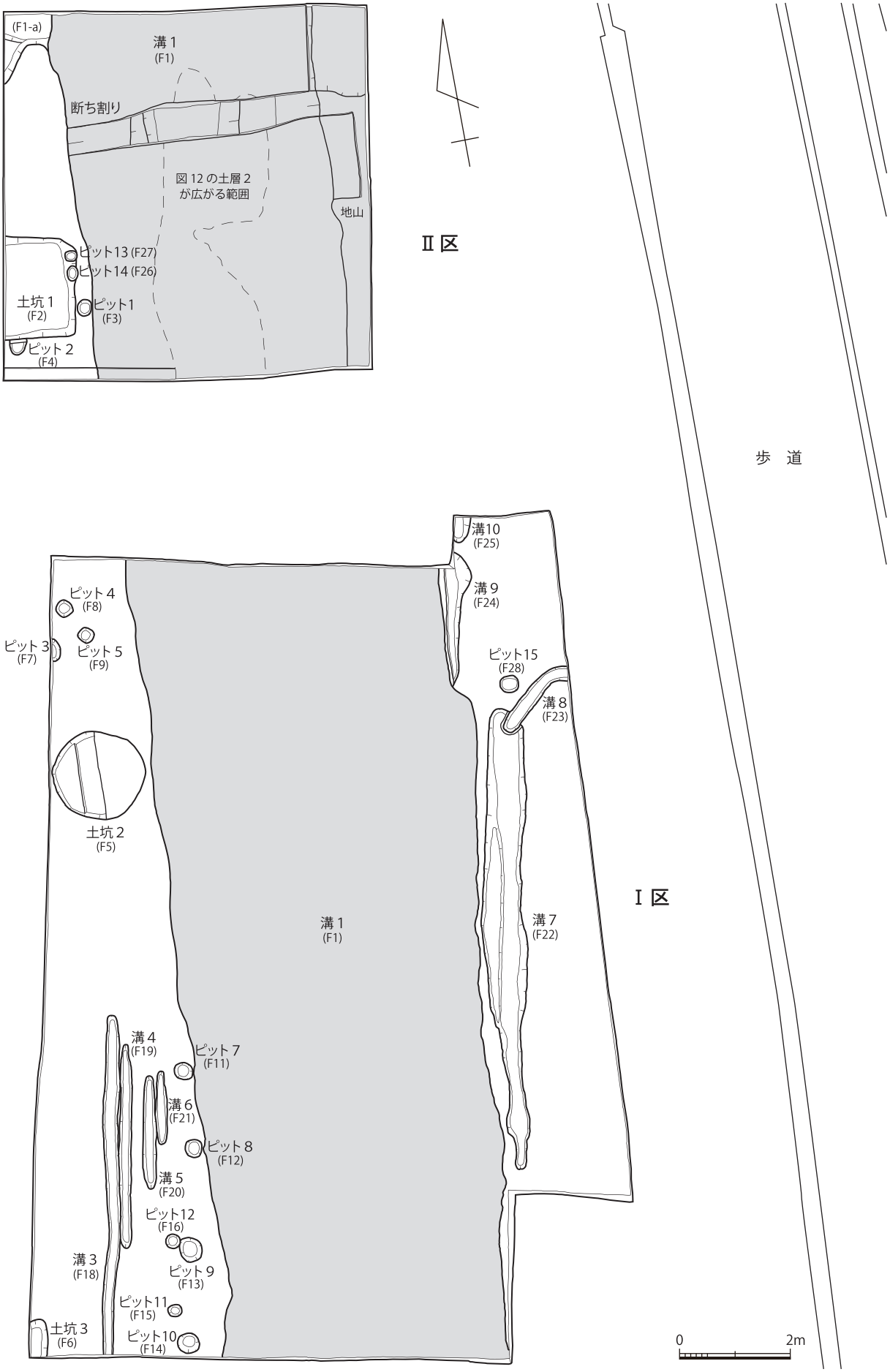


図 11　全体平面図（S＝1／100）

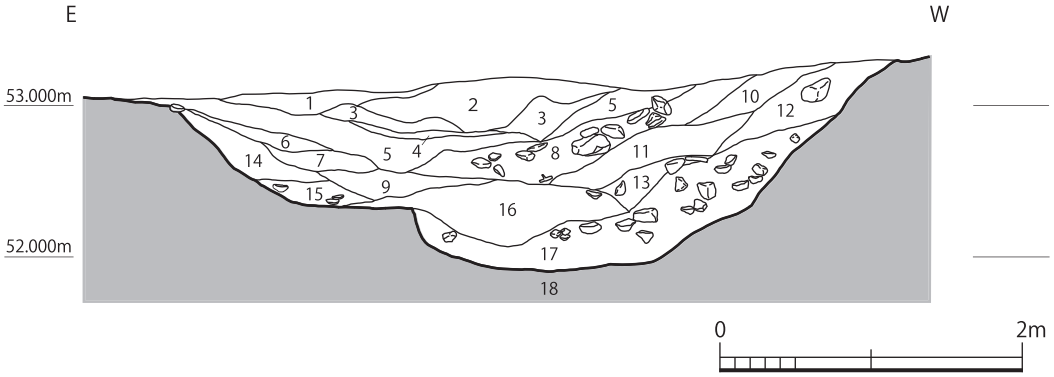
作土に伴う近世以降の遺構である。

ピットは、土師器小片が出土したピット10を除いて、遺物は出土していない。

（２）Ⅱ区（図10～13）

西側の地山面を除き、溝１が調査区の大部分を占めるが、東側の肩部は調査区外である。溝１の中央やや北側を断ち割った。深さは 1.5mで、断面は逆台形状を呈す（図 12）。西側は傾斜変換点がなく急傾斜のまま底に至るが、東側は調査区外でさらに立ち上がることが想定できるため、２段のテラス状の平坦面が形成されていたことになる。土層観察の結果、一気に埋まったのではなく、数次に分けて埋まっていったことがうかがえる。まず礫混じりの17層が西側より流れ込んだ後、16層上面と東側の１段目テラスが一時的な底になる。この時点までに帯水していた様子はない。その後両側から土砂が入り、４層では砂が堆積していることから一時的に流水があり底であったと推測される。

断ち割りによる狭い範囲での調査であったこともあり、遺物の取り上げは深さ 0.2m単位でおこなっている。層序単位での取り上げではないため、各層の時期は特定できていない。断ち割り内で出土した瓦質羽釜には、15世紀前半のもの（図13‐４・７）が一部含まれるが、ほぼ15世紀半ばのもの（図13‐５・６・８）で占められている。他に青磁鎬蓮弁文碗の口縁部（龍泉窯系Ⅲ類13世紀後半から14世紀前半、図13‐９）、焼成不良で擂目をもつ瓦質擂鉢（図13‐10）、瓦、生駒西麓の胎土を持つ土釜、土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、陶器などが出土している。また、溝１上面から、16世紀前半の瓦質（土師質）羽釜（図13‐２・３）・瓦質甕（土師質）が出土している。



1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（細砂含む、締りなし、3cm前後大の円礫を多く含む、２層が少量まじる）
2. 10YR6/8 明黄褐色粘質土に、10YR7/2にぶい黄橙色砂質土が混じる（地山由来の土か）
3. 10YR4/1 褐灰色粘質土（細砂含む、締りなし）
4. 10YR6/1 褐灰色粗砂
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（細砂を少量含む、粘性強）
6. 10YR5/8 黄褐色砂質土（地山由来か）に10YR5/3にぶい黄褐色粘質土（細砂含む、締りなし）がまじる
7. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土（1cm前後の小礫を多く含む、粘性やや強）
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（細砂含む、粘性やや強、円礫を多く含む）
9. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（細砂含む、粘性やや強）
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（粗砂を含む、締りなし）
11. 10YR4/1 褐灰色粘質土（細砂を含む、締りなし）
12. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（細砂を含む、締りなし）
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（細砂含む、粘性やや強）
14. 10YR5/1 褐灰色砂質土（粗砂を含む、締りなし）
15. 10YR5/1 褐灰色砂質土（粗砂を多く含む、締りなし、円礫を多く含む）
16. N4/ 灰色粘質土（細砂含む、粘性強、耐水の影響かやや青灰色に変色）
17. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土（粗砂を含む、円礫を非常に多く含む）
18. 10YR6/8 明黄褐色砂礫【地山】

図12　Ⅱ区溝１断ち割り南壁断面図（Ｓ＝１／50）

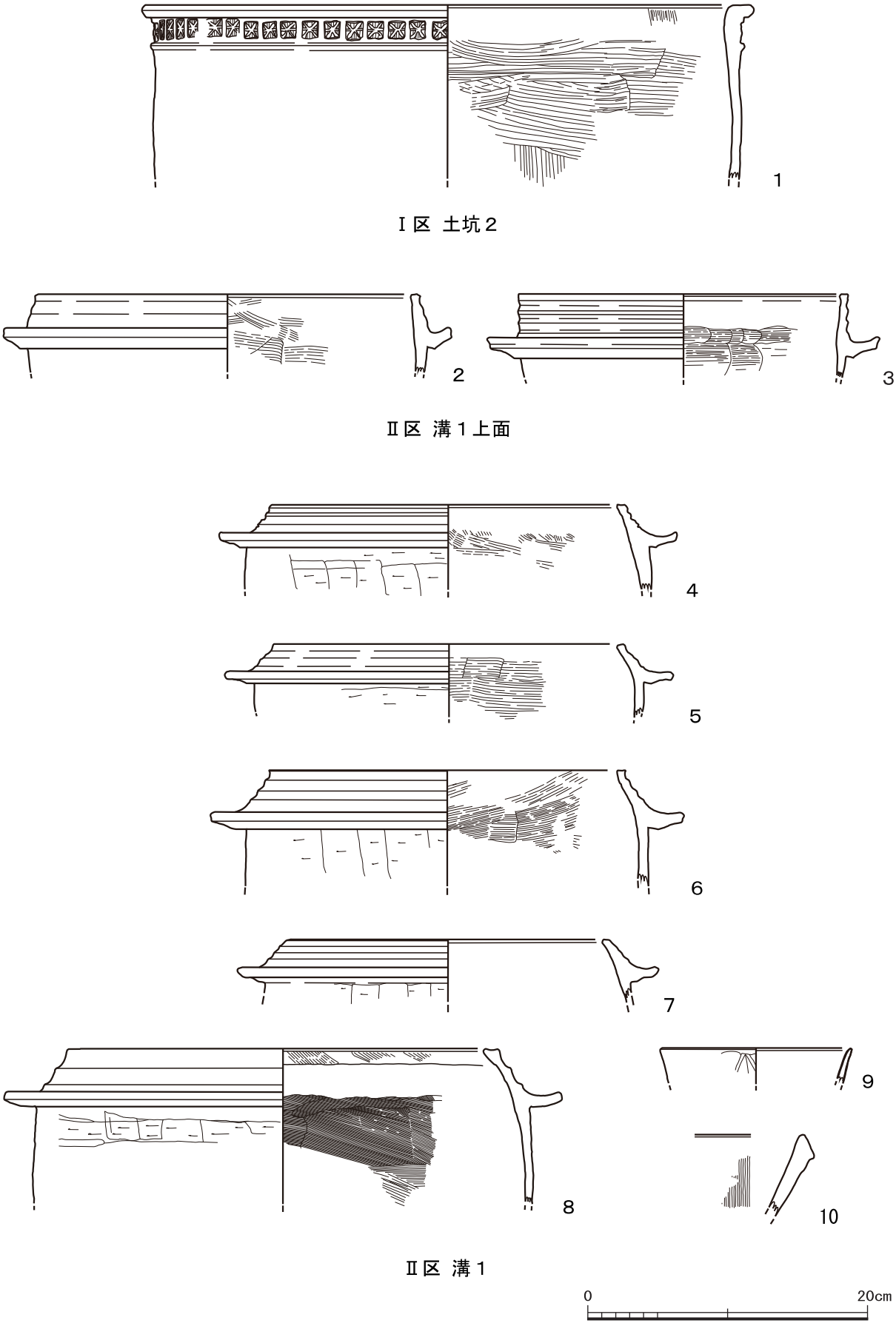


図 13　出土遺物実測図（S＝1／4）

溝１の西側から土坑１基（土坑１）、ピット４基（ピット１・２・13・14）を検出している。

土坑１は、南北幅２m、深さ 0.2mの方形の遺構で、底面は平坦になっている。遺物は土師器や須恵器の小片のみである。ピット２は土坑１に切られ、ピット 13・14 は土坑１内で検出した。ピット２・13・14 で遺物は確認されていない。ピット１は溝１と土坑１の間に位置し、瓦質羽釜や瓦質擂鉢が出土している。

第４節　喜志城伝承地と既往調査の溝遺構について

埋蔵文化財包蔵地としての喜志城跡は、中野集落北西端にある墓地周辺の微高地（図９）に登録されている。その経緯は定かでないが、文献などでは、異なる地を喜志城跡として伝えている。『大阪府全誌』巻四（大阪府 1903）には、喜志城址は字川面と新堂村大字中野に跨る所と記されており、喜志尋常小学校創立 60 周年記念に刊行された『河南郷土史讀本』は、川面の南方田園の中に長山と呼ばれる低く長い丘陵上としている。中野町在住の溝川安雄氏がまとめられた『我が町我が村七百年の歴史』には、長山に楠氏の出城として長見城が存在したとあり、その位置を中野町小字畑ヶ谷の北とする。『大阪府全誌』によると馬場・大手という小字名が残るとあるが、市史編纂の際に作成された文化財課保有の小字図には同地付近に城跡と関連づけられるような小字名は認められない。

これらの伝承地周辺は近年に宅地開発が行われ、1996 年度から 1998 年度にかけて富田林市遺跡調査会によって発掘調査が実施され、その成果はすでに公表されている（富田林市遺跡調査会 1997a、1997b、1998）。1997 年度調査では、南北に伸びる幅 5.0m、深さ 0.5m～0.7m の溝が検出されており、美原太子線のあたりで西方へ大きく広がるか、屈曲すると推測される。この溝は出土している瓦質羽釜から、14 世紀後半の遺構として報告されている。1996 年度・1998 年度は宅地内の道路部分のみの調査であったため、1997 年度で検出された溝遺構の南側の調査は行われていない。いずれの調査でも平安から中世前期にかけての遺構が多数検出されており、集落が存在していたと思われる。

今回の調査地東側に面する市道甲田桜井線に伴う調査（2006～2010 年度）においては、2007 年度および 2010 年度調査で幅 7.0m、深さ 1.5mの溝遺構を検出している。今回調査区の北側延長線上にあたり、2007 年度調査区の北端中央で東に屈曲する。遺構は調査区の東・南西へと続いている。この溝遺構の出土遺物は実見できていないが、当時の調査担当者は、最終埋没時期について 16 世紀前半との見解を示している。溝の東側にあたる 2006 年度および 2007 年度調査では、14 世紀から 15 世紀の遺構を多数検出している。

第５節　まとめ

今回の調査区の大部分を占める溝１は、断ち割り部分においては 15 世紀代の遺物を確認した。しかし、溝１の検出面で 16 世紀前半の遺物が出土していることから、最終埋没時期は 16 世紀前半と考えられる。なお、小字名や地割図には、遺構の存在をうかがえるような痕跡は確認できない。

2007 年度・2010 年度調査の溝遺構と今回調査の溝１は、規模と遺物の時期が一致する。溝の規模と断面形状から中世城館の堀であろう。1997 年度調査の溝遺構は位置が離れており、また遺物の時期が異なるため、溝１との関係や性格は不明である。喜志城伝承地付近に存在する中世城館の全容解明に向けて、既往調査の整理作業を進めていきたい。

参考引用文献

大阪府『大阪府全誌』巻四、1903

大阪府教育委員会『南河内における中世城館の調査』2008

大阪府教育委員会『甲田南遺跡－一般国道（旧）170 号線歩道設置工事に伴う発掘調査－』大阪府埋蔵文化財調査報告 2010－８、2011

大阪府富田林市立喜志小学校『郷土のすがた　喜志』1973

大阪府立南河内郡喜志尋常高等小学校『河南郷土史讀本』1934

富田林市遺跡調査会『中野北遺跡』1997a

富田林市遺跡調査会『中野北遺跡Ⅱ』1997b

富田林市遺跡調査会『中野北遺跡Ⅲ』1998

富田林市教育委員会『富田林市の埋蔵文化財―埋蔵文化財基本分布図』1978

富田林市史編集委員会『富田林市史』第１巻、1985

上田秀夫「14 から 16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第 2 号、1982

奥井智子「畿内における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21、2007

小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』1970

寺沢薫・森岡秀人『弥生土器の様式と編年　近畿編 1』1989

鋤柄俊夫「畿内における古代末から中世の土器－模倣系土器生産の展開－」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ、1988

鋤柄俊夫「大阪府南部の瓦質土器生産(２)」『中近世土器の基礎研究』Ⅴ、1989

鋤柄敏夫「各地の瓦質土器」『概説　中世の土器・陶磁器』1995

鋤柄俊夫「中世食器の地域性　畿内」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集、1997

瀬戸哲也ほか「沖縄における貿易陶磁研究－14～16 世紀－」『沖縄埋文研究』５、2008

立石堅志「奈良火鉢」『概説　中世の土器・陶磁器』1995

溝川安雄編『我が町我が村七百年の歴史』1991

村井毅史「中世城跡と堀の発生と展開－近畿地方の発掘事例を中心に－」『花園史学』10、1990

森島康雄「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究』Ⅵ、1990

山上雅弘「都市・城郭における堀・溝・土坑」『関西近世考古学研究』22、2014

吉岡康暢・門上秀叡『琉球出土陶磁社会史研究』2011

全国シンポジウム「中世窯業の諸相－生産技術の展開と編年－」実行委員会『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年』2005

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい２７ねんど　とんだばやししないいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成27年度　富田林市内遺跡群発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	富田林市文化財調査報告書
シリーズ番号	57
編著者名	角南 辰馬、林　正樹、渡邉 晴香
編集機関	富田林市教育委員会
所在地	〒584-8511　大阪府富田林市常盤町1番1号　TEL0721-25-1000(代)
発行年月日	2016（平成28）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
こうだみなみいせき 甲田南遺跡	とんだばやししこうださんちょうめ 富田林市甲田三丁目	27214	45	34°29′28″	135°35′29″	20150219	14.2	範囲確認調査
みやじんじゃうらやまこふんぐん 宮神社裏山古墳群	とんだばやししみやちょうさんちょうめ 富田林市宮町三丁目	27214	8	34°31′06″	135°36′02″	20150324	―	分布調査
あわがいけいせき 粟ヶ池遺跡	とんだばやししさくらいちょうにちょうめ 富田林市桜井町二丁目	27214	13	34°31′11″	135°36′28″	20150306～20150313	15.6	個人住宅
き し いせき 喜志遺跡	とんだばやししきしちょうよんちょうめ 富田林市喜志町四丁目	27214	1	34°31′32″	135°36′35″	20150601～20150602	2.75	個人住宅
なかのきたいせき 中野北遺跡	とんだばやししなかのちょうさんちょうめ 富田林市中野町三丁目	27214	15	34°30′55″	135°36′43″	20150902～20150918	203	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲田南遺跡	集落跡	縄文～中世	―	土師器・須恵器	―
宮神社裏山古墳群	古墳	古墳	古墳	―	―
粟ヶ池遺跡	集落跡	弥生～近世	落ち込み・溝	土師器・須恵器	―
喜志遺跡	集落跡	弥生～中世	土坑・ピット	石器・弥生土器	―
中野北遺跡	集落跡	旧石器～中世	溝・土坑	土器・瓦質土器	大型の溝状遺構を検出。周辺の調査状況から、中世城館に関わる遺構である蓋然性が高い。

図　　版

図版1　粟ヶ池遺跡（AG2014－1）

調査区近景（北東から）

調査区近景（南から）

図版2　粟ヶ池遺跡（AG2014－1）

調査区西壁土層断面（南東から）

調査区南壁土層断面（北西から）

図版3　喜志遺跡（KS2015－1）

1面目完掘状況（南西から）

2面目完掘状況（南西から）

図版4　中野北遺跡（NNN2015－1）

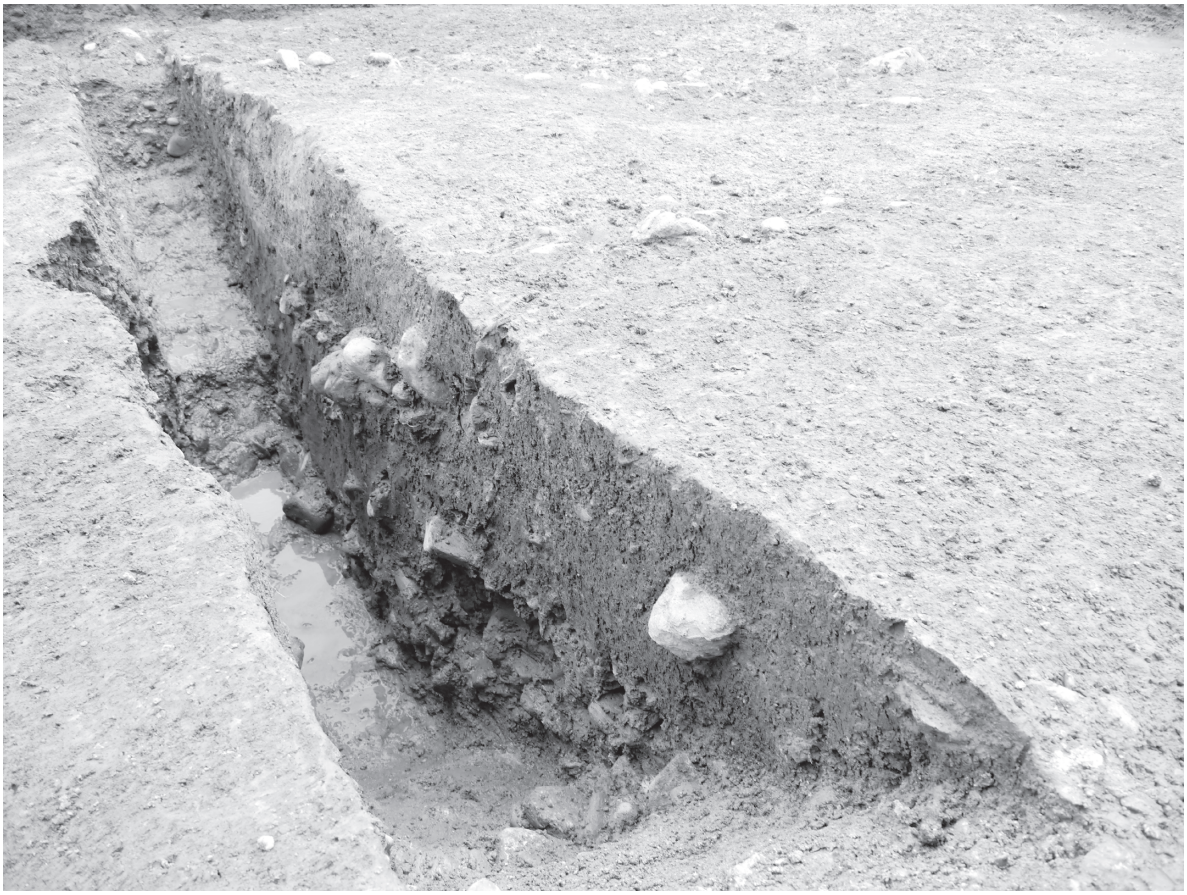
調査区近景（南から）

調査区近景（北から）

図版5　中野北遺跡（NNN2015－1）

Ⅱ区 溝１土層断面（北東から）

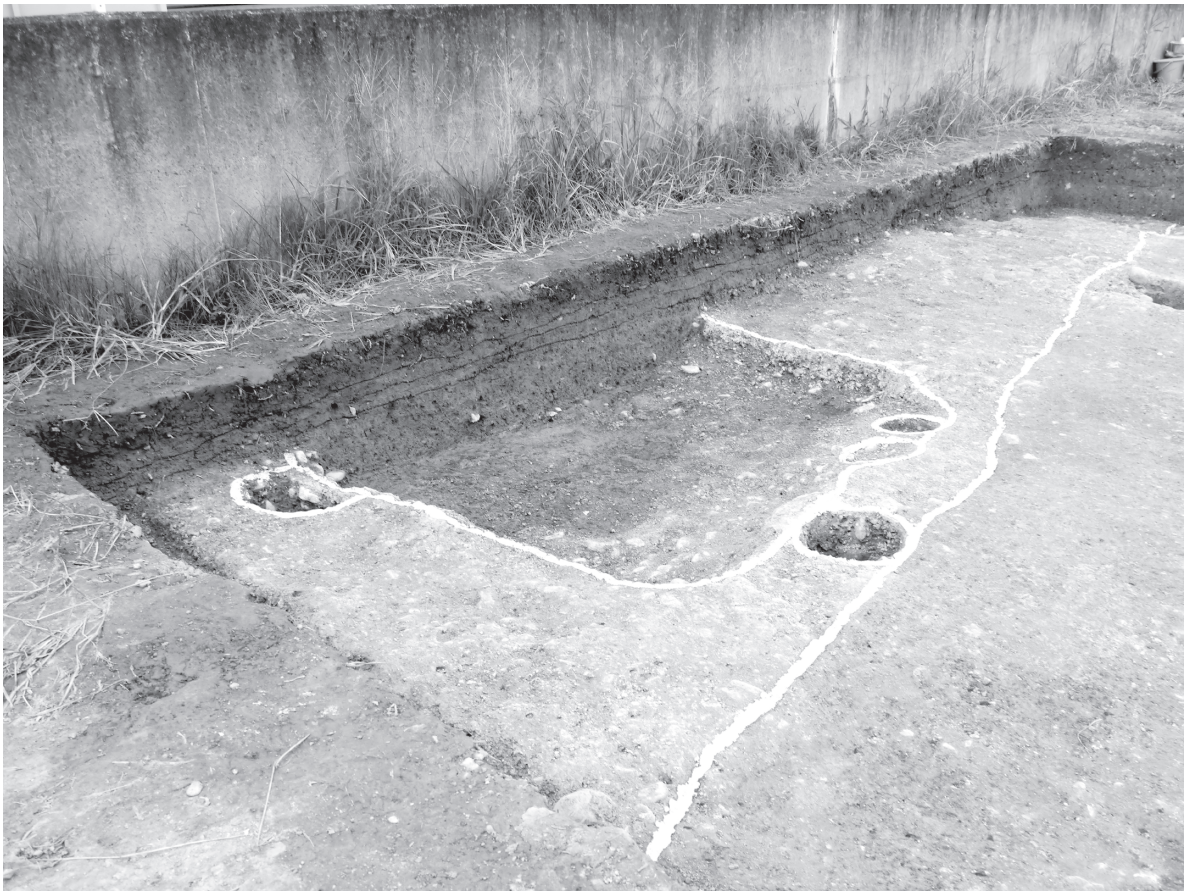
Ⅱ区 溝１西側肩部状況（北東から）



Ⅱ区 溝１土層断面（北西から）

Ⅱ区 溝１東側肩部状況（北西から）

図版7　中野北遺跡（NNN2015－1）



Ⅱ区 西壁土層断面（南東から）

Ⅰ区近景　（南東から）

Ⅰ区　西壁土層断面（北東から）

Ⅰ区　土坑２土層断面（西から）

平成27年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日	2016年３月31日
編集・発行	富田林市教育委員会
住　　所	富田林市常盤町１番１号
印　　刷	明朗社

2016.300